

# 丈夫な血管 長生きのもと

閉塞性動脈硬化症治療の第一歩は、禁煙と話ししました。禁煙や糖尿病のコントロールが、ヒトの血管が元来持っている回復力を十分に発揮する条件です。

点滴や内服薬、運動だけで、八割くらいの方は、閉塞性動脈硬化症による間欠性跛行の症状が軽くなりま

## 閉塞性動脈硬化症①

イパス手術をします。手術直後から劇的に血の巡りが良くなり、「症状」が軽快します。

それでは、症状がなくなれば良いのでしょうか？

## 生活習慣の改善必須

がんなどの手術では、悪い物を取り除いていますが、血管外科の手術では動脈の詰まった「原因」を取り除いているわけはありません。結局、生活習慣を改め、動脈が詰まってしまった要因を少なくしないと、また詰

まってしまいます。そして、詰まったらまた手術をすれば良いのでしょうか？

足の細い動脈が詰まった時には、代用に自分の表在静脈（深部静脈血栓症の時に話しました）を動脈として使います。つまり使える静脈に限りが

人より進行していたというところで、つまり一生付き合っていく病気です。禁煙、保存的療法から開始して、血管を傷つけない生活習慣を身につけた上で、病状の悪化に依じてのカテーテル治療、バイパス手術を使い分けていくことが重要です。これを考えているのが心臓外科や循環器内科ではない「血管外科」です。

あるということ。血の巡りを良くしないと、足が腐る段階まで病気が進行した時に静脈がなかったら、切断しか方法はあります。

閉塞性動脈硬化症は、治療で治る「病気」ではなく、血管の「老化」が他の

錦見 尚道先生  
(にしきみ・なみち)



名古屋生まれ。東海高校、名古屋大学医学部卒業。大学院終了後、米国留学。桐生厚生総合病院で研修中に血管外科を志望。名古屋第一赤十字病院血管外科部長。